

雪 と 交 通

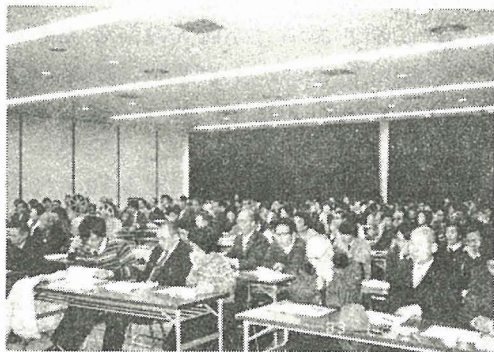
昭和58年1月28日、旭川市との共催により、旭川市民文化会館において地方談話会が開かれた。当地での談話会は、これが3年ぶり3回目である。今回は、冬期間の自動車走行に関する問題点を、冬の気象、事故の実態及びスパイク・タイヤの構造と性能の観点から取り上げ、談話会のテーマを「雪と交通」とした。話題提供は、道庁を中心とした冬の気象の特徴を気象台の若原勝二氏、冬道での自動車事故に関して多くの資料を有していただける警察署の浅野正紀氏、及び自動車工学からみたスパイク・タイヤの安全性について道工大の堰内 数氏にお願いをした。参加者は、一般市民のほか、冬の交通に関係のあるハイタク、運輸業界や交通安全の担当者ら200人以上に達し、大変盛会であった。川原俊男氏(旭川市役所)の司会による自由討論では、多くの具体的な問題が提起され、活発な意見の交換が行われた。その中には、4輪駆動車の運転の仕方、スパイク・タイヤへの過信は危険であり場合によってはスパイクレス・タイヤの方が安全な場合があることや、簡単な安全運転の見分け方など、実用的で興味深い質疑応答があった。このように、今回の地方談話会を成功裡に行なうことが出来たのは、テーマの選定から講師の紹介に至るまでの多くの方々の御助力、特に旭川市市長公室の皆様の御協力があったためであり、ここに深く感謝いたします。

地方談話会 昭和58年1月28日 旭川市民文化会館

テーマ 「雪 と 交 通」

話題及び講演者

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 "旭川の冬の気象" | 若原勝二氏(旭川地方気象台) |
| 2 "冬の交通事故の実態" | 浅野正紀氏(旭川方面旭川警察署) |
| 3 "車はどうしたら滑らないか" | 堰内 数氏(北海道工業大学) |
| 4 映画 "冬と道" (30分) | |



旭川地方談話会における
聴衆

地方談話会を開催して

川原 俊 男 (旭川市企画課長)

学会という言葉の響きが、一般市民の方がたに近寄りやすいという感じを持たせるのだろうか、常日頃考えていた。この私の気持の中には、多分にこれまで数回旭川で開催した雪氷学会の情景が頭から脱していなかっただけである。

昨秋、雪氷学会北海道支部の幹事の先生から、地方談話会も旭川で開催してもよいとの連絡をいただいた時も、正直なところふっと、そんな想いがかすめたのである。

地方談話会を招き受ける私共市町村の担当者は、「良い機会が得られた」と心ほおませると同時に、とにかく多くの市民の方がたに参加していただけるものにしたいたい、まず考えるのである。そのために私共は“学会”という堅いイメージを払拭するような市民受けのするテーマ選別に最も意を注ぐことになるのである。だから、学会の先生方には誠に申し訳ないと思いつながら、学会とはほど遠いテーマと内容をお願いすることになるのである。

さて、今回の談話会のテーマは“雪と交通”とさせてもらった。これは旭川市政の柱の一つが、北国に視点をあいた街づくりであること、さらに、昨年異常な増加をみた交通事故の実態から、旭川市では交通事故非常事態宣言をし、市民総ぐるみで交通安全運動を展開していることを併せ考えた結果である。

ところで、北国に視点をあいた街づくりというテーマも、半年間冬の生活を余儀なくされる旭川にとっては、行政的にも極めて多岐な分野に亘ることになるが、私共が最も力を入れなければと考えていることは、冬の生活を豊かで快適なものにしていくとする市民の意識の高まりを図ることである。いいかえると、旭川市民の中かう“冬はいやだ”、“冬は暮しにくい”という声がなくなることである。

たしかに、私共の日常生活を見渡すと驚くほど北国で生活するには相応しくない多くの実態が見受けられる。したがって、私共が北国の生活実態を正しく認識し、そこに住んでいくことの問題点をはっきりと見極め、北国での生活を改善していくとする意識をもつことが最も緊要なことである。このためには、雪や寒さがつきまとう北国に住んでいるのだというしつかりとした認識をもつことである。

ここ数年、旭川市が実施している北政視察団の派遣、冬を描く児童生徒絵画展もこうした観点に立って取り組んでいるものであり、今回の談話会もその一環である。特に、私共にとって今回の談話会は、旭川市がこれまで進めてきた北方生活問題の成果を知る機会でもあったし、今後の北国に視点をあいた街づくりを進める目安にもしたいと考えていたのである。

談話会の当日、市の広報紙や新聞報道でこの談話会の開催を知った市民が会場を埋めた。二百人収容の会場に入れお帰りになった市民もいた。私の頭の中にあつたこれまで数回開催した学会の情景は、すっかりと消え去っていったのである。

北国に視点をあいた旭川の街づくりも、どうやら定着化しつつあると思いつながら、旭川に雪が降り限り続くこの課題に、雪氷学会の先生方の御尽力を今後ともお願いする次第である。